
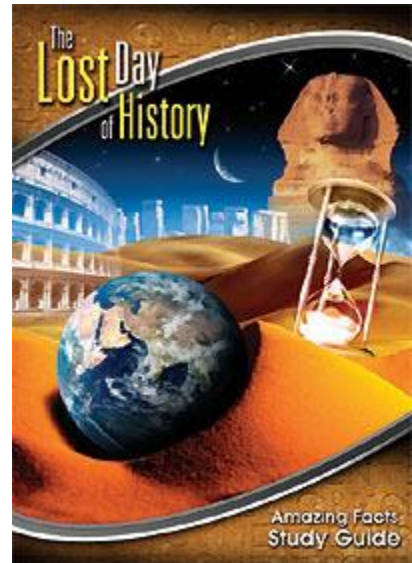


7. 歴史における失われた日

このページのプリント 

ほとんどすべての人が忘れてしまっている大切な日が存在することをご存知ですか？ その日は、人類史上最も重大な日のひとつであるにもかかわらず、ほんのわずかな人々だけしかその日を知らないということは非常に驚きです！ それは過去だけではなく、現在、そして未来においても重要な日なのです。さらに、この軽んじられてきた日に何が起るかということは、あなたの人生に計り知れない影響を及ぼします。歴史において失われた日に関する驚くべき事実を知りたいと望まれるでしょうか？ それではこの講座の学びを入念に進めてください。



1. イエスが習慣として礼拝を守られたのは、週のどの日でしたか？

「それからお育ちになったナザレに行き、安息日にいつものように会堂にはいり、聖書を朗読しようとして立たれた。」ルカによる福音書 4:16

答え：安息日に礼拝をすることがイエスの習慣でした。



イエスがこの地上におられた時には安息日に礼拝された。

2. しかし、週のどの日が安息日ですか？



週の七日目(土曜日)は安息日である。

「七日目はあなたの神、主の安息日である」出エジプト記 20:10 「さて、安息日が終わったので ... 週の初めの日に、早朝、日の出のころ墓に行った。」マルコによる福音書 16:1, 2

答え：多くの人は、安息日は週の一日目（日曜日）だと思っていますが、週の七日目（土曜日）が安息日です。上記の聖句で、安息日は、週の初めの日（一日目）のすぐ前の日であることに注目して下さい。

3. 安息日を制定されたのはどなたですか？それはいつでしたか？

「はじめに神は天と地とを創造された。」「神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終って休まれたからである。」創世記 1:1; 2:2, 3

答え： 神がこの世界を創造されたときに安息日を制定されました。神は安息日に休まれ、そして祝福し、聖別(聖なることのために取っておくという意味)されました。



神は天地創造の時に安息日を造られた。

4. 神は、ご自分の指で刻まれた十戒の中で、安息日を守ることに何と言われましたか？



神は、ご自分の指で安息日の戒めを書かれた。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」出エジプト記 20:8-11 「主は神の指をもって書きしるした石の板二枚をわたしに授けられた。その上には、集会の日に主が山で火の中から、あなたがたに告げられた言葉が、ことごとく書いてあった。」申命記 9:10

答え： 十戒の四番目の戒めで、神は週の七日目の安息日を聖なる日として守るように命じておられます。神は、人々がこの戒めを忘れることをご存知でありましたので、この戒めを「安息日を覚えて」という言葉で始めておられます。神はだれにも、また聖書のどこにも、他の日を聖なる日として守るようには命じられていません。

5. しかし、実際には、この安息日を守れとの神の戒めは変更されたのではないのですか？

イエスは言われます：「しかし、律法の一画が落ちるよりは、天地の滅びるほうが、もっとたやすい。」ルカによる福音書 16:17 神は言われます：「わたしはわが契約を破ることなく、わがくちびるから出た言葉を変えることはない。」詩篇 89:34 十戒は、神の唇から出たということにご注目ください。出エジプト記 20:1 には次のように書かれています。「神はこのすべての言葉を語って言われた ... (この言葉の後に、十戒が書かれている 20:2-17 が続きます)」

答え： そんなことはありません！神の道德律である十戒の変更は全く不可能なことです。十戒のすべての戒めを守る義務は、今日も課せられています。



イエスは、神の律法を変えるよりも、天が滅びる方がもっとたやすいと言われた。

6. 使徒たちは、安息日を守りましたか？



パウロ、および他の使徒たちは神の第7日の安息日を清く守った。

「パウロは例によって、その会堂には行って、三つの安息日にわたり、聖書に基いて彼らと論じ、」使徒行伝 17:2 「パウロとその一行は、... 安息日に会堂には行って席に着いた。」使徒行伝 13:13, 14 「ある安息日に、わたしたちは町の門を出て、祈り場があると思つて、川のほとりに行った。そして、そこにすわり、集まってきた婦人たちに話をした。」使徒行伝 16:13 「パウロは安息日ごとに会堂で論じては、ユダヤ人やギリシヤ人の説得に努めた。」使徒行伝 18:4

答え：パウロや初期の教会が、安息日を守っていたことが使徒行伝に明確に示されています。

7. 異邦人たちも安息日に礼拝をしていたのでしょうか？

神はそれを命じられました：

「安息日を守つて、...、これを堅く守る人の子はさいわいである。」「また主に連なり、... すべて安息日を守つて、これを汚さず、わが契約を堅く守る異邦人は -- わたしはこれをわが聖なる山にこさせ、わが祈の家のうちで楽しませる、... わが家はすべての民の祈の家となえられるからである。」イザヤ書 56:2, 6, 7, 強調は引用者による。

使徒たちがそれを教えました：

「ふたりが会堂を出る時、人々は次の安息日にも、これと同じ話をしてくれるようにと、しきりに願つた。」「次の安息日には、ほとんど全市をあげて、神の言を聞きに集まつてきた。」使徒行伝 13:42, 44 「パウロは安息日ごとに会堂で論じては、ユダヤ人やギリシヤ人の説得に努めた。」使徒行伝 18:4



使徒たちは異邦人に、安息日を神聖な日として守るように教えた。

答え：初期の新約聖書時代の教会の使徒たちは、神の安息日遵守の戒めに従つただけでなく、回心した異邦人にも、安息日に礼拝をするように教えました。彼らが日曜日を聖なる日として示したことはただの一度もありません。

8. キリストの死と復活のときに、安息日は日曜日に変更されたのではないですか？

答え：キリストの死と復活によって、安息日が変更されたことをほのめかすような言葉さえまったく記述されておらず、かえって聖書は正反対のことを教えています。下記の証拠をひとつひとつ復習してみてください：

A. 神は安息日を祝福されました。

「主は安息日を祝福して聖とされた。」出エジプト記 20:11 「神はその第七日を祝福して、これを聖別された。」創世記 2:3

B. キリストは、神の民が安息日を守り続けていることを前提に、紀元 70 年のエルサレム滅亡に関して語られました。

イエスは、紀元 70 年に、エルサレムがローマ軍によって滅ぼされることをよくご存じでありましたので、そのことに関して弟子たちに次のように言われました。「あなたがたの逃げるのが、冬または安息日にならないように祈れ。」マタイによる福音書 24:20 (強調は引用者による) イエスは、ご自分が復活された 40 年後も、安息日を守り続けられていることを期待されていたことは明らかです。実際に、聖書のどこにも、イエスや父なる神、または使徒たちが (いついかなる時も、どんな状況においても)、聖なる七日目安息日を他の日に変更したという少しの手がかりも見つけることができません。

C. キリストの死体に香料を塗るために来た女たちは安息日を守りました。イエスは「安息日の前日」に死なれました (マルコによる福音書 15:37, 42) が、現在その日はグッド・フライデー (聖金曜日) と呼ばれています。

イエスの体に塗る香料と香油の準備をした女たちは「おきてに従つて安息日を休んだ。」ルカによる福音書 23:56 と書かれています。「安息日が終わった」(マルコによる福音書 16:1) 「週の初めの日に」(マルコによる福音書 16:2) になって初めて女たちは悲しみの作業を続けるために墓にきました。彼女たちは「週の初めの日の朝早く、イエスはよみがえつたことがわかりました (9 節)、この日は一般にイースター・サンデー (または日曜日の復活祭) と呼ばれています。ここで注目していただきたいことは、「おきてに従つて」休んだ安息日は、イースター・サンデー (日曜日の復活祭) のすぐ前日、現在の呼び名では土曜日であったということです。



イエスが復活された時には、安息日は日曜日に変更されなかった。

D. キリストの弟子であったルカは、聖書の二つの書を書きました -- ルカによる福音書と使徒行伝です。ルカは、ルカによる福音書において、イエスの教えを「ことごとく（すべて - 英）」書き記したと言っていますが（使徒行伝 1:1-3）、日曜遵守や、安息日の変更についての記録はまったくありません。

9. 安息日は、神の新しい地球でも守られるとある人は言っていますが、これは本当のことですか？

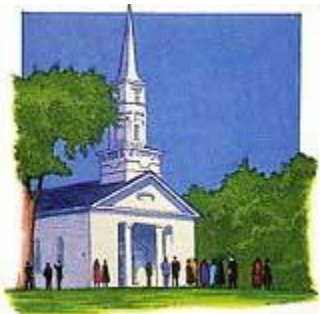
「『わたしが造ろうとする新しい天と、新しい地がわたしの前にながくとどまるように、あなたの子孫と、あなたの名はながくとどまる』と主は言われる。『新月ごとに、安息日ごとに、すべての人はわが前に来て礼拝する』と主は言われる。」イザヤ書 66:22, 23

答え：すべての時代の救われた人々は、新しい地で安息日を守ると聖書は述べています。



神の永遠の王国にいる全ての者は安息日を神聖なる日として守る。

10. けれども日曜日が主の日ではないでしょうか？



主の日は日曜日ではなく安息日である。

「安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ」イザヤ書 58:13 「人の子は安息日の主である。」マタイによる福音書 12:8

答え：ヨハネの黙示録 1:10 で、聖書は「主の日」と言っていますので、主は確かに特別な日をお持ちです。けれども、日曜日が主の日であると言及されている聖句はどこにもありません。むしろ聖書では、安息日が主の日であることが明確にされています。主によって祝福され、聖なる日と宣言された日は、常に七日目安息日だけです。

11. キリストの復活に榮譽を帰し、記念とするために日曜日を守るべきではないでしょうか？



イエスはバプテスマの制度を設けられた--それは日曜遵守ではなく--イエスの復活の記念である。

「それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にひとしくなるであろう。わたしたちは、この事を知っている。わたしたちの内の古き人はキリストと共に十字架につけられた。それは、この罪のからだが減び、わたしたちがもはや、罪の奴隷となることがないためである。」ローマ人への手紙 6:3-6

答え：その考えは、十字架に榮譽を帰し記念するために、金曜日を聖日として守ると言っているのと同じことです。キリストはご自分の死と葬り、そして復活を記念するためにバプテスマの儀式を与えてくださいました。聖書には復活の記念として（またはどのような理由であっても）日曜日を守るべきことなどは示唆されていません。私たちはキリストに服従することによってキリストに榮譽を帰すのです（ヨハネによる福音書 14:15）-- それは神の戒めの代わりに人間が作った要求を守ることによってではありません。

12. さて、もし日曜日に礼拝することが聖書の中ないのであれば、一体それはだれの考えなのですか？

「彼はまた時と律法とを変えようと望む。」ダニエル書 7:25 「こうしてあなたがたは自分たちの言伝えによって、神の言を無にしている。」人間のいましめを教えとして教え、無意味にわたしを拝んでいる。」マタイによる福音書 15:6, 9 「その祭司たちはわが律法を犯し」「その預言者たちは、水しっくいこれを塗り... 主が語らないのに『主なる神はこう言われる』と言う。」エゼキエル書 22:26, 28

答え：何年も前に、誤りを信じてしまった人たちが、神の聖日は安息日から日曜日に変更されたと公布しました。神はこのようなことが起こることを予告されましたが、この予告の通りになったのです。この誤りは、私たち疑いを知らない世代に確かな福音として伝えられてきました。日曜遵守は靈感を受けていない人たちの伝統であり、安息日遵守を命じられている神の律法を破ることになります。日を聖別できるお方は神だけです。神が安息日を祝福されましたので、神が祝福されたものをだれも「変えることはできない」のです。民数記 23:20。



誤った人間が神の法律である安息日を日曜日に変更するという大胆不敵なことをした。

13. けれども、神の律法を勝手に変更するなどということは、とても危険なことではないでしょうか？

「わたしがあなたがたに命じる言葉に付け加えてはならない。また減らしてはならない。わたしが命じるあなたがたの神、主の命令を守ることのできるためである。」申命記 4:2 「神の言葉はみな真実である... その言葉に付け加えてはならない。彼があなたを責め、あなたを偽り者とされないうためだ。」箴言 30:5, 6

答え：神は、人間が減らしたり付け加えることによって、神の律法を変更することを明確に、はっきりと禁じておられます。いかなる形であっても、また多少にかかわらず、神の聖なる律法を勝手に変更することは、人間がなすことにおいて最も恐るべき、そして危険なことです。



安息日を日曜日に変更することは、聖なる神の律法の改ざんを企てることになるので、神に対する侮辱である。

14. ところで、神はなぜ安息日を制定されたのですか？

A. 創造のしるし

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」出エジプト記 20:8,11

B. 救いと清めのしるし

「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別したことを、彼らに知らせるためである。」エゼキエル書 20:12

答え：神は安息日を二重のしるしとして与えられました：(1) 神は文字通りの24時間を一日とした6日間に世界を創造され、そして、(2) それはまた、人間を救い、清める神の偉大な力のしるしです。すべてのクリスチャンは、神の創造と、救いの尊いしるしとしての安息日を疑いもなく愛することでしょう(出エジプト記 31:13, 17; エゼキエル書 20:12,20)。人間が神の安息日を踏みこむことは、神に対しての大いなる侮辱です。イザヤ書 58:13,14 で神は、祝福される者は皆、まず安息日を踏みこむにしている足をとどめなければならないと言っておられます。



安息日は、創造と贖いにおける神の力のしるしである。

15. 安息日を守ることはどれほど重要なのでしょうか？

「罪とは律法を犯すことである。」ヨハネの第一の手紙 3:4(欽定訳聖書) 「罪の支払う報酬は死である。」ローマ人への手紙 6:23 「なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである。」ヤコブの手紙 2:10 「キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである。」ペテロの第一の手紙 2:21 「彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救いの源となり」ヘブル人への手紙 5:9

答え：それは生死に関わる厳重な事柄です。安息日遵守は、神の戒めの四番目で命じられていますので、とても重要なことです。十戒の中のひとつであっても故意に破ることは罪です。クリスチャンは、キリストが安息日を守られた模範に喜んで従うのです。私たちの唯一の安全は、「真理のみ言葉を、正しく教え...」(テモテの第二の手紙 2:15) と述べられているように、勤勉に聖書を学ぶことです。私たちのクリスチャンとしての歩み、そしてなすべきことに対して、明確な聖書の土台を持っていなければなりません。



神の律法の一つでも破ることは罪です。

16. 安息日を無視する宗教的指導者のことを、神はどのように思われていますか？



神は知りながら彼の安息日を無視した宗教指導者たちに憤りを注がれる。

「その祭司たちはわが律法を犯し、聖なるものを汚した。彼らは聖なる物と汚れた物とを区別せず... わが安息日を無視し、こうしてわたしは彼らの間に汚されている。」 「それゆえ、わたしはわが怒りを彼らの上に注ぎ」エゼキエル書 22:26, 31

答え： 神の真の安息日から目を背ける宗教指導者は、天の神を不快にさせます。神はこのような偽りの羊飼いは必ず刑罰が下ることを述べておられます。何百万という人々がこのことに関して感嘆されています。神は安息日を破ることを甘く見ることはおできになりません。神を愛しているように見せかけながら、伝統によって十戒のひとつを無効にしていたパリサイ人たちが、神は強く譴責されました（マルコによる福音書 7:7-13）。

17. 安息日を守ることは、本当に私個人に影響するのでしょうか？

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」ヨハネによる福音書 14:15 「だから、わたしたちひとりひとり、神に対して自分の言いひらきをすべきである。」ローマ人への手紙 14:12 「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」ヤコブの手紙 4:17 「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、自分の着物を洗う者たち(欽定訳聖書:戒めを守る者たち)はさいわいである。」ヨハネの黙示録 22:14 「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある。」ヨハネの黙示録 14:12

答え： もちろんです。安息日はあなたの安息の日です。神はあなたのために安息日を制定されました。安息日は神の戒めのひとつでありますので、もし神を愛するならば、神の律法を守るはず（ヨハネ第一の手紙 2:4）。戒めを守らない愛は、愛ではありません。あなたは決断をすべきです。これは避けることができず、言い訳をすることもできません。この最も重要な事柄に関して、あなた自身が神のみ前で答えることになるのです。神は今、あなたが神を愛し、神の戒めを守ることを願っておられます。



天に入り、生命の木から食べる者は皆、神の安息日を神聖な日として守る。

18. 私は安息日を守られたイエスの模範に喜んで従います。



答え：
 はい
 いいえ

質問

1. けれども安息日は、ユダヤ人のためだけにあるのではないですか？

マルコによる福音書 2:27

イエスは「安息日は、人のために造られた」（マルコによる福音書 2:27 欽定訳聖書）と言われました。それは、ユダヤ人のためだけでなく、人類 -- あらゆる場所にいるすべての男女のために造られました。ユダヤの国は、安息日が制定されてから 2500 年の後までは、存在さえしていませんでした。

2. 使徒行伝 20:7-12 は、弟子たちが日曜日を聖日として守ったという証拠ではないのですか？

使徒行伝 20:7

聖書によると、一日は日没から始まり、次の日の日没で終わり（創世記 1:5, 8, 13, 19, 23, 31；レビ記 23:32）、そして夜から始まります。ですから、安息日は金曜日の夜の日沈に始まり、土曜日の夜の日没で終わります。使徒行伝 20 章に記されている集会は、日曜日が始まる夜、または今日という土曜日の夜にもたれた事になります。新英語聖書* で、使徒行伝 20:7 は、「土曜日の夜、私たちの集会で ... 」と始まっています。それは土曜日の夜の集会であり、真夜中まで続きました。パウロは別れの旅に立つところであり、彼が死ぬ前に、再びそれらの人々に会うことができないことを知っていました（25 節）。ですからパウロが夜中まで話し続けた理由がよく分ります（毎週の集会では夜通し続くようなことはありませんでした）。「パウロは翌日出発することにしていました。「パンをさく」ということは、「聖なる日」と何の関連も重要性もありません。なぜなら、彼らは日々パンをさいていたからです（使徒行伝 2:46）。これらの聖句は、週の一日目と聖なる日であるとか、早期のクリスチャンたちが聖日とみなしていたという証拠になるものではまったくありません。あるいは、安息日に変更されたことをほのめかす出来事でさえありません。ちなみに、この集会について聖書が記録を残した理由は、ユテコが三階から下に落ちて死んだ後に生き返った奇跡のためであったと考えられます。エゼキエル書 46:1 で、神は日曜日を、「働きをする六日の間」のうちの一日としておられます。

*(C) The Delegates of the Oxford University Press and the Syndics of the Cambridge University Press, 1961, 1970. Used by permission.

3. コリント人への第一の手紙 16:1,2 は、日曜学校の献金について述べているのではないのでしょうか？

コリント人への第一の手紙 16:2

この聖句は、公の集会のことについて書かれていたものではありません。お金は各個人の家庭に蓄えられていたものでした。激しい飢饉がユダヤ地方を襲い（ローマ人への手紙 15:26；使徒行伝 11:26-30）、パウロはアジア諸国の教会に、飢饉に見舞われている兄弟たちに対する援助の要請を手紙に書いていました。これらのクリスチャンたちは皆、安息日を清く守っていましたので、パウロは安息日が終わった日曜日の朝（支払いと決算の日であった）に、助けを必要としている兄弟たちのために何かを蓄えておくようにと提案していました。このように手元に準備をしていればパウロが来たときに受け取ることができたからです。これらは公の集会でなされた献金ではなく、個々になされたことであって、スペイン語の聖書では「家で」と訳されています。この聖句も日曜日が聖日であるということ述べているではありません。実際、聖書のどこにも日曜遵守を命じたり、示唆している箇所はありません。

4. けれどもキリストの時代から時間が失われたり、週の曜日が変更されたりしていませんか？

ルカによる福音書 4:16

信頼できる百貨辞典や、参考図書では、現在の七日目は、イエスが清く守っていた日と同じであることが明確にされています。これは調べればすぐにわかることです。

5. ヨハネによる福音書 20:19 は、復活を記念として弟子たちが日曜礼拝を定めた記録ではないですか？

ヨハネによる福音書 20:19

それとは反対に、弟子たちは、イエスが復活されたことをこの時点では信じていませんでした（マルコによる福音書 16:14）。弟子たちは「ユダヤ人をおそれて」そこに集まっていて戸を固く閉めていました。キリストが彼らのいるところに現れたときに「彼らの不信仰と、心のかたくななお責めに」なりまし。この聖句は、弟子たちが日曜日を聖日としたというような意味はまったくありません。新約聖書の中に 8 箇所だけ週の一日目という言葉が書かれていますが、どれもその日が聖日であるという意味の言葉は含まれていません。

6. コロサイ人への手紙 2:14-17 では、七日目安息日を取り除いたと書かれていませんか？

コロサイ人への手紙 2:14

取り除かれた安息日は「きたるべきものの影」である安息日だけのことであり、七日目安息日のことではありません。古代イスラエルでは、年に七回、聖なる日があり、これらの日も安息日と呼ばれていました。それらは「このほかに主の安息日」（レビ記 23:38）と書かれているものであり、追加されたものでした。それは十字架を指し示す予型であり、十字架で終わりました。神の七日目安息日は、罪が入る以前に制定されましたので、罪からの救いに関しての予示などはできませんでした。ですからコロサイ人への手紙 2 章では、これらの追加された安息日は「影」であるとはっきりとした違いを述べているのです。廃止された、または取り除かれたこれらの七つの年毎の安息日は、レビ記 23 章に記載されています。

7. ローマ人への手紙 14:5 によれば、私たちがどの日を守ろうともそれは自分自身で判断することではないですか？

ローマ人への手紙 14:5

この章全体は、お互いに裁き合うことについて書かれていることをご理解ください（4,10,13 節）。ここで問題にされているのは、偉大な道徳律である七日目安息日のことではなく、礼典律の祭日に関してです。ユダヤのクリスチャンたちは、異邦のクリスチャンたちがこれらの祭日を守っていないと裁いていました。パウロは、「お互いに裁き合ってはいけない、その礼典律を守る義務はもうなくなった」と単に言っているのです。

クイズ

1. イエスが聖なる日として守られたのは (1)

- 日曜日。
- 七日目安息日。
- 一日おきに。

2. 主の日は (1)

- 週の一日目である日曜日である。

- 週の七日目である安息日である。
- 私たちが主にお捧げする日は、どの日でも主の日である。

3. 安息日が制定されたのは (1)

- ユダヤ人のためだけである。
- すべての時代の、あらゆる所にいるすべての男女のために、天地創造のときに神によって制定された。
- 旧約聖書の時代に住んでいた人々のためだけである。

4. だれによって安息日が日曜日に変更されたのですか? (1)

- キリストによって。
- 使徒たちによって。
- 惑わされた人々によって。

5. 安息日の掟を含む神の律法は (1)

- 神の律法は、今日では無効である。
- 神の律法は不変であり、今日も守る義務を負っている。
- キリストの死で廃された。

6. 新約聖書時代の教会において回心した異邦人と使徒たちは (1)

- 日曜日を聖なる日として守った。
- その人が誠実あるならば、どの日を聖日としても構わない教えた。
- 安息日を守っていた。

7. 安息日は (1)

- 十字架で終わった。
- キリストの再臨で終わる。
- 神の新しい永遠の王国ですべての時代の救われた人々によって守られる。

8. 安息日は神の律法の一部なので、安息日を破ることは(1)

- キリストの死後は、それに関しては何も心配する必要はない。
- 聖なる律法を踏みにじるのであるから、それは危険な罪である。
- 今日においては、それはなにも大切ではない。

9. イエスを心から愛し、従うすべての人々は (1)

- イエスが安息日を守られたように守る。
- 一日おきに聖なる日として守る。
- 日曜日を聖なる日として守る。

10. 安息日は (1)

- 週の一日目である日曜日である。
- 週の七日目である土曜日である。
- 私たちが神にお捧げすれば、どの日でも安息日である。

11. 日曜日を守ることは (1)

- 聖書に預言されているように人間が作り上げたものである。
- 今日のための神の計画である。
- キリストの復活のときに始まり、ペンテコステにおいて承認された。

12. 安息日を守ることは (1)

- 律法主義のしるしである。
- ユダヤ人だけが重要である。

神の創造と救済という二重のしるしである。

著作権 ; 2006 年 **Amazing Facts Inc.** 無断での複製、転載を禁じます。
個人使用に限ってのみ複写可。 by www.bibleuniversity.com Bible School website.